

＝平成30年度早川南小学校だより＝

# はるき



平成30年10月26日

No.30

校長 坂野修一

## 明日から読書週間です！ 読書を習慣に…



「ホッと一息 本と一息」。読書推進運動協議会が提唱する今年の読書週間の標語です。この標語を考えられた方のコメントが、読書推進運動協議会のHPに書かれていました。『忙しい日常のひと時、5分でも10分でも本を読んでいる間は本と自分だけの時間。つついきりがつけられずホッとしばなしになるのが玉に瑕……わたしのたいせつな時間です。』スマホ全盛の今の時代、5分10分の隙間時間があると、スマホを手にして何かの情報を得たり、SNSを利用したり、ちょこっとゲームをしたりしている私にとって、沢田さんのコメントを読み反省しきりです。

終戦まもない1947年(昭和22)年、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているなかで「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社・取次会社・書店と公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって、11月17日から、第1回『読書週間』が開催されました。そのときの反響はすばらしく、翌年の第2回からは期間も10月27日～11月9日(文化の日を中心にした2週間)と定められ、この運動は全国に広がっていきました。そして『読書週間』は、日本の国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民の国」になりました。いま、電子メディアの発達によって、世界の情報伝達の流れは、大きく変容しようとしています。しかし、その使い手が人間であるかぎり、その本体の人間性を育て、かたちづくるのに、「本」が重要な役割を果たすことはわかりありません。暮らしのスタイルに、人生設計のなかに、新しい感覚での「本とのつきあい方」をとりいれていきませんか。『読書週間』が始まる10月27日が、「文字・活字文化の日」に制定されました。よりいっそうの盛りあがりを目指します。

※読書推進運動協議会のHPより

「本を読むのは良いこと」という認識は、ほとんどの人が持っていることでしょう。実際に読書することで、「読解力」がつく、「集中力」がつく、「想像力」がつく、「作文力」がつくなどと言われています。特に、全ての学習の土台になる「読解力」をつけるためには読書は欠かせません。また、本をたくさん読むことは、知識の源となります。「本は知識の**根本**」ともいわれます。「本」という漢字を一年生で習いますが、その成り立ちは、「木」の根元にしるしを付けて、「もと」を意味する「本」になっています。「根本」とは「物事が成り立っている基礎になるもの、おもと」です。だから「本」という字を含む熟語には、本物、本当、本質、基本、見本などの大切な言葉を表す意味が多くありますよね。秋の夜長、「じっくり本でも読んだらどうですか？」自分自身に言い聞かせながら「はるき」作成の画面とにらめっこしている私です。

20日(土)～21日(日)山梨県教育研究集会在私の地元である笛吹市で行われ、私も参加してまいりました。記念講演では、兵庫県在住の教育サポーター仲島正教さんのお話を伺い共感したのですが、その先生が書かれた「成長しない子はいない」という本を記念講演終了後購入しました。当面は、その本を読むこととしたいと思っています。

本校独自の南小読書週間は、11月5日(月)～30日(金)となっています。子どもたちは、たくさん本を読んでくれるのでしょうか？読書週間を契機に、さらなる読書の習慣がつかますよう、保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。